

やなせたかしさん最後の作品が朝日小学生新聞に

連載「やなせたかしのメルヘン絵本」の最終回 12月2日付掲載



やなせさんが亡くなったあとも続いてきた朝日小学生新聞の連載。12月2日付が最終回となる。中央はやなせさんが亡くなったときの記事

先月13日に亡くなったまんが家・やなせたかしさんの生前最後の作品が、12月2日付の「朝日小学生新聞」に掲載される。同紙の連載「やなせたかしのメルヘン絵本」の最終回で、タイトルは「コナ」。イラストには、粉雪が頬の上で涙のようにとけている青年が描かれている。山の中で一人暮らす青年が、ふしぎな女の子コナと出会い、粉雪の舞う日に別れを迎える、というお話だ。原画は天地25センチ×左右32センチで、ストーリーは約1200字。やなせさんが病床で手掛けた最後の作品となる。

「アンパンマン」で知られるやなせさんは、まんが家以外にもたくさんの顔を持っていた。作詞家、絵本作家、脚本家……。 「中でも約30年前の雑誌『詩とメルヘン』の童謡の連載は、特に大切に思っていたようだ」と、やなせさんを古くから知る朝日学生新聞社の編集担当者は話す。毎月1曲、やなせさんが作詞、故いずみたくさんが曲をつけて掲載していた。このシリーズの世界観をもとに、新たに「絵本」として構築したのが、朝日小学生新聞の「やなせたかしのメルヘン絵本」だった。

連載は2010年4月からスタート。当初は隔週だったが、子どもたちから寄せられる声が励みとなり、半年後の10月からは毎週になった。30話を迎えたころ、東日本大震災が起こった。視力の低下から仕事を減らすつもりでいたが、「こわい思いをしている子どもたちのために」と再び力を振り絞り、同じペースでかき続けた。

「最後の日までかくよ」。連載を始めて間もないころ、やなせさんが担当者に伝えた通り、連載は146回まで休むことなく続き、最終回を迎えた。

作品は同名の絵本シリーズとして4巻が、朝日学生新聞社から発行されている。